

仁王門・仁王尊像修復事業概要

法海寺仁王門・仁王尊像修復趣意書

「**八幡のおやくっさん**」と呼ばれ、古くから地元の人々に親しまれている法海寺、その正面入口に位置する仁王門が、この度、知多市の文化財に指定されました。寛文6（1666）年の建立とされており、建造物としての文化財的価値が認められたため、市の貴重な文化遺産として保存が義務付けられたわけです。

法海寺は天智7（668）年、時の天智天皇の勅願寺として建立され日本三薬師の一つといわれております。知多半島屈指の古刹に残る文化財は既に県指定三点、市指定十点を数え、ここに新たな一点が追加されたこととなります。わが郷土の誇り、薬王山法海寺には、樹齢数百年とも伝えられる四本の楠がそびえ、その鬱蒼と茂った巨木の下をくぐり仁王門を抜けると、かつて、門前一带が田畑だったころには八幡小学校・中学校の校舎が眼前に広がっていました。この通学路を利用した沢山の方々や諸先輩と同じように、現在も子どもたちが通っています。そして、これからも多くの子孫がこの仁王門をくぐり続けることと思います。

しかし、寛文6（1666）年の建立から340年余の風雪に耐えてきたため損傷が著しく、専門家の調査結果によれば、現状のままでは勿論のこと部分的補修では、今後、長期的な維持保存が望めないと診断されました。江戸時代前期の建築様式を今に伝え、わが郷土の祖先が大切に守り通した仁王門を次の世代へ確実に伝承することが、現代に生きるわれわれの責務ではないかと考えます。また、門内に安置されている仁王像も優れた彫刻技術が施された江戸時代を代表する名品であると鑑定され、この好機を逸することなく500年、1000年先を見据えた、適切な保全措置を講じなければならないとの意見が浮上しました。このような状況を鑑み、関係者一同が合議したところ、幸いにして「法海寺仁王門・仁王像平成修復委員会」の発足をもって、早急に対処することへのご賛同をいただくことができました。

ここに、当八幡地区における歴史的一大事業としての重要性をご賢察いただき、修復事業を推進するにあたり、皆様からの格別なる浄財のご喜捨を賜りたく、謹んで、絶大なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

敬 白